

明治大学 × SDGs

神田 学生街



日本最古で最大の学生街・神田。
成長と変化を続ける神田学生街の
さまざまな「いま⇄むかし」をめぐって、
展示室とSNSなどオンライン空間とを
駆使してご紹介します。

いま ⇄ むかし
140年の今 ⇄ 昔

会場

明治大学博物館特別展示室

入場無料

主催

明治大学史資料センター 明治大学博物館

会期

2022年2月3日(木)から4月10日(日)

※4月10日(日)は臨時開室します

月～金 10時00分から17時00分(最終入場16時30分)

土 10時00分から12時30分

※祝日休館

※休館日・開館時間については変更する場合があります。
詳しくは、博物館ウェブサイトにてご確認ください。

本展示はSDGs17の目標のうち、「4 質の高い教育をみんなに」
「11 住み続けられるまちづくりを」に資することを目指します。



「神田学生街」

とは？

いまを遡ることおよそ140年前。江戸時代武家町であった神田区西端（現在の千代田区神田錦町から神田駿河台を含み、神田神保町までの一帯）に、教育機関が次々と設置されました。1886（明治19）年に駿河台に校舎を構えた明治大学もその一つです。

ほどなく同地区周辺には、日本屈指の学生たちの大きな生活圏が形成されました。下宿屋、書店、料理店、雑貨店……。学生たちの衣食住を満たす一大学生街が神田に誕生したのです。神田学生街は、時代や学生のライフスタイルなどの各種の変化に対応しながら、学生の成長をはぐくむ揺籃（ゆりかご）として、持続的に変化と成長を続けています。

展示構成

※変更の可能性があります。



神田学生街の〈場〉。今⇔昔

神田学生街の変遷や新旧さまざまなランドマークを、大学所蔵の古写真を活用して紹介します。



かつての明大生がみた神田学生街

特別展「校友山脈 明治大学の教育と人材」(2021年7/31-11/3開催)第Ⅱ部として、各界で活躍する明治大学校友(卒業生)が学生だった頃目にした神田学生街の風景を紹介します。



学生企画

「住み続けられるまちづくりを」など、SDGsの目標に対応した展示等の企画を予定しています。お楽しみに！

今⇔昔の一例



御茶ノ水駅前のいま ⇔ むかし（左 2021年 右 1975年）

会場図

会場 明治大学博物館特別展示室

- JR中央線・総武線／御茶ノ水駅（駅番号：JC03・JB18）下車徒歩約3分
- 東京メトロ丸ノ内線／御茶ノ水駅（駅番号：M20）下車徒歩約3分
- 東京メトロ千代田線／新御茶ノ水駅（駅番号：C12）下車徒歩約5分
- 都営地下鉄三田線・新宿線、東京メトロ半蔵門線／神保町駅（駅番号：I10・S06・Z07）下車徒歩約5分

